同窓会会報

福岡大学医学部同窓会

第 8 号

平成2年5月15日

第9回 福岡大学医学部同窓会総会案内

福岡大学筑紫病院管理棟

第9回 福岡大学医学部同窓会総会ご案内

拝啓　新緑の候、同窓生各位におかれましては、益々ご健勝のおん事とお慶び申し上げます。この春、第13回生115名が会員に加わり、わが同窓会も1,400名を越す所帯となりました。

さて、今年も第10回生が当番幹事となり、恒例の福岡大学医学部同窓会総会及び懇親会を、下記の如く開催いたします。益々の盛会、魅力ある同窓会とするために、多数の方々のご参集をお待ちしています。本年も総会に引続き、卒業年度別の学年会(各々別会場)を計画していますので、久方ぶりに懐かしい面々があなたをお待ちしていることと思います。ぜひ都合をつけてお誘い合わせの上、旧交を暖めて戴きたいと存じます。

お手数ではございますが、同封の葉書にご出欠をご記入の上、同窓会事務局宛ご返送戴ければ幸いです。もしご欠席の場合は委任状欄にも併せてご記入下さい。

尚、学年会についても同封別紙案内をご覧の上、葉書表面下段の出欠欄にご記入戴きますようお願いいたします。　　敬　具

平成２年５月

福岡大学医学部同窓会

会　長　山　崎　　節（第１回生）
幹　事　武　末　　淳（第10回生）
同　　松　前　知　治（第10回生）
同　　内　田　俊　毅（第10回生）

記

日　時　　平成２年７月７日(土)
　総　会　　午後６時
　講　演　　ゴルフと健康　　午後６時20分
　　講師　清永　明助教授（体育学部・医学部１回生）
　懇親会　　午後７時
　　マジックショー　　図師伸一郎先生（12回生）
　各学年会（各学年毎、別会場）　　懇親会終了後
場　所　　福岡国際ホール（西日本新聞会館16階）
　　福岡市中央区天神１－４－１　電話 092－712－8855
会　費　　5,000円（会場受付にて戴きます）
　　＊学年会会費については同封「学年会ご案内」参照のこと。

なお準備の都合上、ご出欠通知並びに委任状は、６月16日までに到着するよう、ご投函下さい。

従来、学年会のみご出席される方もありましたが、どうぞ総会にもご出席戴きますようお願いいたします。

ご あ い さ つ

会 長　山 崎　　節（1回生）

今年も3月26日に第13回生の115名が無事卒業し、代わって4月4日には第19回生が希望も新たに入学して参りました。毎回毎回繰り返しますが、卒業生総数1415名となりました。来年は福岡大学医学部創立20周年であり、同時に福岡大学医学部同窓会創設10周年に当たります。区切りの時期にあたり、医学部や福大病院とも協力して記念の事業・行事の準備にも入りたいと思います。

昭和62年度より3年ぶりに名簿の全面改訂がなされ、すでに4月初めまでに会員の皆さんの手許に届いたと思います。校正には十分配慮したつもりですが、間違いに気付かれた方や出張その他で変更があった場合は、速やかに名簿に差し込まれたはがきで事務局まで連絡下さい。

名簿の整備は、福大を離れて活躍している同窓生にとって、意外にも身近に同窓の士の存在を知らしめる事ができると思いますし、これがきっかけとなって各地域の同窓の輪ができ、更に支部結成にまでつながって行けばと期待しています。

昨年は（突然）医学部より、「福岡大学医学シンポジウム」のための資金協力依頼が舞い込み、会員の皆さんには大変ご迷惑をお掛け致しました。昨年5月無事にシンポジウムは終了し、私立大学特別教育助成の援助も受けることができ、内容はオランダの出版社より昨年末出版されました。募金に関しては、当初の予想を大きく上回る182名の方の協力をいただき、総額220万円集まりました。上記のように特別助成も得られたそうですが会員の母校福岡大学医学部の国際研究事業に寄せた思いを今後も生かしていただく為に、寄付金と利子を含めて2,225,743円を3月9日に医学部へ渡しました。当初医学部が希望した300万円までの不足分を同窓会から支出する件は、事情が変わりましたので補充しませんでした。三好医学部長も予定通り2年に一回開催して行きたいと再度発言されましたので、今後の活動資金に有効利用されるものと期待しています。

別記のように今年の総会は7月7日に福岡国際ホールで例年のように開催致します。会員の多数のご参加をお待ちしています。

第13回卒業生謝恩会に於て記念品を贈る山崎会長（西鉄グランドホテル）

新病院長あいさつ

同窓会会報８号の発行によせて

福岡大学病院　病院長　菊　池　昌　弘

福岡大学医学部も昭和47年の設立以来既に18年の歳月を経て、この３月迄に1415名の卒業生を出し、その多くの方々は医療の第一線で活躍されて居られることをお慶び申し上げます。また多くの方々が私ども福岡大学病院で研修をなされ、現在では病院の重要な一員として日夜診療に励んでおられ、福岡大学病院を支えて居られることは実に頼もしいかぎりであります。日々進歩する医療、そして次第に厳しくなる医療環境に在って、福岡大学病院が地域医療の中核として高く評価されているのも、皆様の活躍の賜物と感謝しています。福岡大学病院では、目下さらなる発展を求めて救命救急センター開設の準備を行なっていますが、２年後の完成の暁には、福岡市西部に於ける医療の中核としての姿が一段と明らかになるものと考えています。病院にあってはこれまでの診療各部門の充実はもとより、新たな部門として形成外科外来が開かれたのを始め、東洋医学外来も計画されています。さらに外来、入院患者の増加により病院は次第に手狭になって来ましたので、関連病院の整備とともに、長期的な観点に立った将来計画が準備されつつあります。同窓会会員の皆様の多くの方が、各地でご活躍のこともよく耳に致します。どうかそれぞれの地にあって、我が国の医療を支える力として、福岡大学医学部同窓の皆様が今後益々ご健勝にその姿を新たにされることを祈念致します。

福岡大学病院

清 永　明氏（1回生・内科第2）
体育学部助教授へ

教員の異動（助教授以上）

（平成元年10月～2年4月）

向野義人	（内科第2講師）	体育学部教授昇任	平1.10.1
清永　明	（〃 講師 1回生）	体育学部助教授昇任	〃
三好萬佐行	（解剖第2教授）	医学部長（再任）	平1.12.1
菊池昌弘	（病理第1教授）	福岡大学病院長	〃
朝長正道	（脳神経外科教授）	福大筑紫病院長（再任）	〃
浅尾　學	（心臓外科教授）	福大病院副病院長	〃
小野　庸	（放射線医学教授）	看護専門学校長	〃
有馬純孝	（筑紫病院外科助教授）	教授昇任	平2.4.1
岡　一成	（脳神経外科講師）	助教授昇任	〃
向野利寛	（産業医科大学）	眼科助教授採用	〃
岩本英明	（整形外科 5回生）	体育学部助教授採用	〃
松井敏幸	（九州大第2内科）	筑紫病院内科助教授採用	〃
後藤勝彌	（放射線助教授）	転出・飯塚病院へ	平2.3.31
古野純典	（公衆衛生助教授）	転出・防衛医大教授へ	〃
白日高歩	（外科第2助教授）	転出・産業医大教授へ	〃
田口　尚	（病理第2助教授）	転出・長崎大教授へ	〃

有馬純孝教授略歴　　昭和13年2月20日生　52才

昭和41年3月	九州大学医学部医学科卒業
〃 42年4月	九州大学医学部第一外科教室入局
〃 45年11月	北九州市立小倉病院ガンセンター外科勤務
〃 50年6月	福岡大学病院助手
〃 54年4月	同　講師
〃 60年6月	福岡大学筑紫病院助教授
平成2年4月	同　教授

福岡大学筑紫病院の紹介

福岡大学筑紫病院
整形外科　城　戸　正　喜（昭53年卒）

福岡大学筑紫病院は昭和60年７月に開設され、４年半ばを過ぎて待望の管理棟が本年２月にやっと完成しました。これを機に筑紫病院について紹介します。

筑紫病院は昭和60年７月に患者中心の診療科の枠を越えた全人間的医療というスローガンを掲げ、福岡大学医学部の卒前、卒後教育においての第２病院的位置づけに設立された病院であります。

診療科目としては、内科、消化器科、外科、脳外科、小児科、整形外科、病院病理部、麻酔科、放射線科で、開設当初より総合病院化を目標に挙げてありましたが、そのための新たな診療科増設につき地元医師会の理解を得るべく話し合い中です。

開設以来勤務している者として筑紫病院の現状は、設備の不備、スタッフの不足、多忙さ等全く肉体的、精神衛生上良くない事のみでありますが、遅々としてではありますが筑紫病院が充実するのを見るに付け設立準備から開設において基礎づくりされた奥村前々院長（内科第１教授）、病院を軌道に乗せられた浅尾前院長（心臓外科教授）、管理棟の完成、さらに総合病院化に御尽力されている朝長院長（脳外科教授）や各部長に深い敬意を表したい。

昭和60年以前に卒業され福岡を離れられた方々のため簡単にその位置につき説明します。筑紫病院は福岡市と久留米市の中間の筑紫野市にあります。公共交通機関では、西鉄大牟田線の朝倉街道駅（天神より約20分、急行停車）より徒歩５分、ＪＲでは天拝山駅より徒歩５分の所にあります。

対象医療圏は、地元の筑紫野市、太宰府市、大野城市が６～７割を占め、甘木、日田方面、小郡、鳥栖市方面、春日市、福岡市が残りの３割ぐらいを占めます。その他、壱岐・対島、熊本、佐賀、北九州等遠隔地からも年々増加して来ています。

本年３月時点の現状でありますが、２月に７階建ての管理棟が出来上り、開設して４年半すぎてやっと医局が定住しました（２回の引っ越しでかなり机の整理ができましたが）。医局は６階の１室が内科、消化器科、放射線科。７階が各部長室と１室に残りの医局があります。医局より周囲を展望すると視界を遮るものは無く、西は天拝山、北東に宝満山が見え、眼下はカワセミも生息している山口川が流れています（まだまだ自然が残っています）。外の展望に比べてこの医局のスペースは狭く、繁雑としており近い将来パンクすることは間違いないと私は思っています。病院自体も狭いスペースに建っており病院の発展とともに新たなスペースの確保の問題が生じてくるものと思います。

各医局間の連絡等は非常にうまくいっ

ており、これは未だ人数が少ないためとおもいますが病院が発展して人数が増えてもこの状態が続くようにと念願しております。

さて、特記すべきは昭和63年度より筑紫病院自体でも研修医を受入れています。研修医は内科系、外科系に分けられ所属する医局の教育方針に沿ってローテーションするシステムです。外科系では外科、脳外科、麻酔科、整形外科をスムーズにローテーションしており、彼等が次の時代を背負ってくれる日を楽しみに指導する日々であります。

各科のそれぞれの現状と展望につきましては各科の方々にこの紙面をお借りして少しずつ紹介して頂く予定であります。

ここで勤務している我々は、いろんな面において決して恵まれている環境でありませんが、１人１人が病院の発展を信じて医療に携わっています。

簡単ではありますがこれで福岡大学筑紫病院の紹介を終わります。

最後になりましたが福岡大学医学部、病院、筑紫病院がより一層発展する事を希望するものであります。

福岡大学筑紫病院

福岡大学筑紫病院　福岡県筑紫野市大字俗明院377－１
〒818　☎ 092－921－1011

標榜科目　内科、消化器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、放射線科、麻酔科

病床数　３４５床

教室紹介

病理学第一教室

当病理学教室は、菊池教授、岩崎教授、村山助教授のもとで助手２人、医員２人、大学院生16人（他講座大学院からの研究生を含む）によって、構成されています。

研究対象は主に人であり、菊池教授はリンパ網内系、造血器を、岩崎教授は骨軟部、性器疾患を、村山助教授は消化器全般を担当しております。

菊池教授の下では、悪性疾患においてよりよい診断とともに、ウイルス、T.B細胞リセプター、癌遺伝子のＤＮＡレベルでの解析を行い、良性疾患では、菊池病を中心に検討し福岡県下及び全国から診断、検査依頼がきています。

岩崎教授は、間葉系悪性腫瘍の培養細胞の検討と共に、間葉系細胞に対する単クロン抗体を作製し特に悪性線維性組織球腫等の細胞起源に対し研究を行っております。また染色体レベルでの異常についても検討し新しい分野を開拓しています。

村山助教授は、故今井先生の最後の直弟子として胃癌の前癌病変について、大きな功績があります。私達のよき相談役です。助手以下全員は、それぞれのパートにてテーマを持ち研究をしており、毎年数枚の原著、数人の学位授与者が生まれて各々の臨床科に戻って行きます。

この様に研究も幅広く行っておりますが、日常の生活は教育、膨大な院内院外の生検、剖検業務に追われているというのが現状です。また福岡大筑紫病院には岩下助教授がおり、病院拡張とともに病理部門をますます充実しようと計画しております。

院外研修としては、国立福岡中央病院に吉田、九州厚生年金病院に溝口両氏が勤務し、それぞれ興味ある疾患を当病理と共に検討しております。

この様に当病理学教室は、医学の進歩と共に臨床の要望に応じ着実な研究を行い、教育、地域医療、そして研究面で貢献していきたいと思っております。

文責　竹下盛重

教室紹介

眼科学教室

当眼科学教室は、増田義哉現特任教授を初代主任教授として開設され、昭和53年増田教授退任に伴い大島健司助教授が教授に就任され、以後現在に至っています。

教室開設以来のメンバーは大島教授のみで比較的若い医局と言えます（なんと平均年齢33歳！）。

眼科は外科と内科との側面を合わせもっていますが、福大眼科は初代増田教授

以来、眼手術を臨床の柱とする眼科外科としてスタートしました。大島教授に至ってその伝統が大きく開花し、硝子体手術では〈九州に福大眼科あり〉と知られるに至っています。硝子体手術は1970年代に開発され、高度な発展をみた眼科手術の一分野で、これによって糖尿病性網膜症や未熟児網膜症、高度な眼外傷などのNoman's landも手の届く範囲となり、眼科の教科書が大きく改訂を余儀なくされています。

当教室ではその最初期からこの手術に取り組み、当然その最も苦しい開発期を乗り越えてきました。予後は悪く、合併症は多く、教科書もなく、手探りで器具・手技の改善に努める教授を、医局員が一体となって支え、しばしば苦しみ、時に迷いながら成績の向上を共に喜べたことは医局員全体の誇りとするところです。若い教授、若い医局員たちで初めて成しえたことと思います。また、眼の手術患者とは思えぬほど悪い全身状態をコントロールしてくれた内科の人々、度重なる緊急手術・再手術を、ぼやきながらも引き受けてくれた麻酔科の人々の協力は、これぞ福大と言うべきではないでしょうか。

このような手術・臨床重視の教室は時として基礎的研究面に余力が回らないものですが、当教室では昭和55年の大学院開設の翌年以来、日本眼科学会総会に演題を欠かしたことはありません。また、大島教授が硝子体手術の講演を要請されるのは当然ですが、それ以外にも硝子体の基礎について教室の仕事をシンポジウムで講演し、また一回生の林・大平が各々日眼総会のシンポジストとなったことは和戦両用の教室としての力を示すものと思います。その教室の基礎的研究の一つの山として、今年日眼総会の宿題報告が新設医大として初めて当教室から行われます。その仕事の多くが同窓生の手になるものです。この様な仕事を行うために同窓の林・大平・加藤整はアメリカに留学、研讃を積みました。本年には８回生の蜂谷他数名が新たに留学の予定です。

現在教室は、総勢32名内同窓生は22名で、ＯＢを合わせると同窓生は合計38名がここで仕事をした事になります。ちなみに福大出身者の現況は以下のようになります。まず一回生の林は昭和63年10月から助教授に就任しました。大塩は講師となり、また医局長３期目を努めています。蔵田は助手、杉・渕野は医員として院内で活躍し、中道・加藤博彦は研修中です。加藤整・田野・伊崎・運天・新屋・本庄・浅野・清沢・鬼塚・松井らは関連病院に出張中です。野中・大里・志賀・武末は大学院で研究に励んでいます。本年４月からは、産業医大より向野利寛助教授を迎え、教室内に新風を吹き込んでくれるものと期待しています。

最後に、当教室はこの10年間に新設医大の教室としては異例の実績を挙げ、発展の一途を辿ってきたと言っても良いと思います。しかし、そのため周囲から必ずしも暖かい視線で見守られ続けている訳にもいかなくなっています。また一面では無理矢理背伸びをした負担も大きくなってきているようです。だからこそ同窓会の支援・協力を心から期待する次第です。

文責　武末・鬼塚

西医体幹部と懇談

同窓会が在学生とどういう関わりを持つべきかと云う事については、以前から同窓会内部の懸案であった。現在では卒業と同時に同窓会費を納め同窓会員となるのであるが、在学中同窓会との関わりが全く無いものだから、同窓会がどんな事をしているかと云うことも知らず、勿論愛着どころか関心も無く、一旦大学を離れてしまえば無縁のものという人達もあったようである。昨年度、学生を準会員とする事や、終身会費を在学中に分割して大学に徴収して貰う事や、西医体会費の徴収を肩代わりすること等、学生との関わりを持つことについての方法が考えられたが、いろいろの事情があって一応沙汰止みとなっていた。一方、在学生サイドは同窓会についてどう考え、何を望んでいるかと云うことも聞く必要があると考えていた矢先、学生のほうも同窓会と接触を取りたがっていることを聞き及んだので、今回の懇談となった次第である。

懇談は４月20日・金曜日、17時、場所は医学部１階Ｂ会議室。同窓会側は小金丸史隆副会長と井上隆則理事、それに池田事務局長が陪席、学生側は西医体の黒岩大三委員長、赤松晴樹、川畑拓也の両委員が出席して行われた。

先ず小金丸副会長から同窓会の輪郭、活動状況、対学生問題に関する今までの経緯等について説明があったが、やはり学生は同窓会に関して殆ど知識が無いようであった。井上理事からも、卒業後同窓会に関心や愛着を持てと云っても、学生時代になにも関わりが無いのにそれを要求することには少し無理があるので、今後は学生との関わり合いを積極的に考えて行かねばならないと云う考えが述べられた。黒岩委員長からも、同窓会と関わりを持つと云うことはむしろ望む所であり、準会員問題、終身会費、西医体会費の問題についても、今後自分達の問題として継続して検討して行きたいと云う旨の発言がなされた。

ついで具体的な問題に入り、先ず第一に同窓会からの提案で、次回発行の同窓会会報から西医体関係の活動状況を掲載するスペースを確保する。その取材と資料提供は学生が行い、会報の必要部数を学生に提供すると云うことになった。第二に学生から要望として、今年は文化発表週間を始めて10周年目に当たるので、記念事業として有名人による講演会を行いたい。ついては西医体会費を今年にかぎり500円増額し、30万円の手当てをすることについては学部長の了解も取ったが、それでも不足するので、その不足分約70万円程度の補塡を同窓会、場合によっては父兄後援会にもお願いしたいと思っているとの話があり、小金丸副会長は検討する旨回答された。

最後に小金丸副会長から、今後このような懇談会を機会有るごとに続けていきたいとの発言があり、18時過ぎ解散した。

文責　池田

終身会費納入状況

福岡大学医学部同窓会では、創設時年会費５千円ということで出発いたしましたが、その後収納率を高め、併せて請求、収入事務の簡素化を図る目的で、終身会費に切り替えつつあることは既にご承知の通りであります。今年始め、終身会費未納の方々には請求書を差し上げ、ご協力をお願い致しましたところ、多数の方々にご協力戴きましたことを厚く御礼申し上げます。現在の各卒業回毎の納入率は別表の通りです。最近では卒業時に、入会費と終身会費を戴くようにしていますので、納入率はぐっと高くなっています。終身会費と云いますと、常識的には大体年会費の10年分が相場ですが、わが会では４年分と金額を下げて納めやすくする事により、全員の完納を目指し、全員で会をもり立てて行こうというのが目標であります。

まだ振込通知書をお手元にお持ちの方は、どうぞ早めにお納め戴きますようお願い致します。紛失された方々のためには、年度末頃またお送り致しますので宜しくお願い致します。なお同窓会総会当日も会場で納入を受け付けますので念のため申し添えます。

終身会費納入状況

平成２年５月１日現在

回	会員数	納入者数	納入率(%)	回	会員数	納入者数	納入率(%)
1	63	51	81.0	8	151	80	53.0
2	83	58	69.9	9	116	66	56.9
3	89	50	56.2	10	104	46	44.2
4	118	65	55.1	11	118	43	36.4
5	112	60	53.6	12	93	91	97.8
6	121	62	51.2	13	115	105	91.3
7	128	60	46.9	計	1411	837	59.3

（死亡者数　４）

お知らせとお願い

＊終身会費の納入について

先だって終身会費未納の方には請求書を差し上げましたが、ご失念などで未納の方がありましたら、早めに納入をお願いいたします。振込依頼書紛失の方は事務局までご連絡頂くか、下記の口座にお振込ください。

口座名　福岡銀行福大病院出張所　普通　１８９３７
名儀人　福岡大学医学部同窓会　　会長　山　崎　　節

＊住所、勤務先等変更の連絡について

先に配布しました同窓会名簿に誤りのある方、その後変更のあった方は、名簿に添付してある連絡票でお知らせ戴きますようお願いいたします。今後はなるべく会報発行の都度、訂正表をお送りしたいと思っています。

＊生命保険代理店からのご挨拶について

同窓会財政の一助とするため、収益事業の一環として三井生命保険の代理店業務を行っています。従来主として在校生を対象に加入をお願いしてきましたが、これからは卒業生の先生方にも広げて行きたいと思っています。学年役員の先生方のご紹介で、ご挨拶にお伺いすることもあるかと思いますので、その節は宜しくお願いいたします。

＜編　集　後　記＞

平成２年度の第１号会報としては、少々内容的に物足り無さを感じますが、やっとの事で発行できました。卒業生も約1400余名となり今後は、もっと多くの会員の忌憚のない意見や要望を掲載したく思っています。

さて、７月の同窓会総会には昨年のような貧会にはしたくなく思っています。我々同窓生の一つの考えの会でもあります。どうか、御協力の程、宜しく願います。

平成２年５月

編集委員　小金丸　史　隆〈第３回卒〉

皆様方からの投稿をお待ちしています